

一般消費者向け防音材シリーズ「防音くん（吸音ブラインド）」

保岡賢治（日本特殊塗料株式会社）

我々日本特殊塗料（株）は、1953年（昭和28年）に開発した塗装することで防音効果を発揮する防音塗料「ニットク・アンダーシール」により、防音材メーカーとしての第一歩を踏み出しました。自動車用防音塗料が国産化されていなかった当時、ニットク・アンダーシールは国内の各自動車メーカーに急速に認められ、鉄道車両にも採用されました。

それから10年後、ニットク・アンダーシールの開発技術をもとに、新しい防音材として「メルシート」を生み出しました。

これらの製品は、当社の業態を大きく変化させ、防錆・防音材メーカー、すなわち”音のニットク”として本格的に歩みを始めるきっかけとなりました。

この2つの製品で培われた防音技術は、自動車用吸・遮音材や建築・構築物用防音材「イーディケル」および「防音くん」シリーズ、家電・OA機器用防音材、さらには鉄道車両用防音材を生み出しました。

このたび新たに立ち上げた「防音くん」シリーズは、従来のプロ向け材料に対し、一般ユーザーが直接購入・使用・効果が実感できるものとした製品です。

これに関連し、2012年4月より弊社のショッピングサイトを開設し、一般消費者の方にも、直接製品を購入でき、使っていただく環境を整え、少しずつ製品ラインナップの拡充を行っているところです。

このような取り組みの中、新たに開発した材料の内、「防音くん（吸音ブラインド）」について、ご紹介いたします。

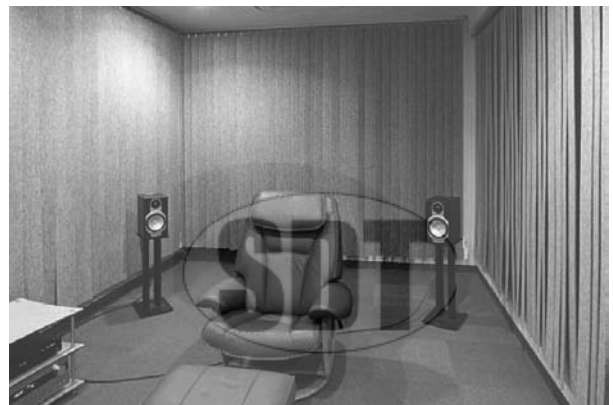
会議室、講堂、教室、など人の話し声が聞き取りやすいことが求められるスペースにおいては、内部の音があまり反射してしまうと音響空間としては使いにくい。

一方、コンサートホールなどの場合には、適当な音の反射、即ち「反響」が求められることがある。

さらに、内部空間の吸音よりも、状況によっては外部からの遮音が優先される場合もある。

近年の住宅内装材は、伝統的な日本の床材である畳や、襖、障子といった建具から、フローリング、クッションフロア、ビニールクロスといったものに移行し、内部空間の吸音性付与が不可欠になりつつあります。

また、近年AV機器の急速な発展・市場認知度が拡大する中、個人レベルで音響空間にこだわりを持たれる人口の増加が顕著となっています。



そこで、状況・目的に応じて内部空間の吸音効果を調整することができ、また、必要に応じて遮音性能を発揮することも可能な吸遮音体が求められているという観点に目をつけ開発した製品が、「防音くん（吸音ブラインド）」です。

従来の内部空間用吸音材は、天井部や壁部に取り付けるものが主流でした。これらでは、工事